

## 令和2年4月 報道機関との定例懇談会 要旨

### □ 情報提供項目

新型コロナウイルス対策について市長が新型コロナウイルス感染症予防や感染拡大防止の取組状況を報道機関にお知らせしました。

### □ 記者との質疑応答

記者：市内の観光への影響について取りまとめているか。

市：現在、数値は取りまとめていない。照会は今後行う。状況として、宿泊・会合のキャンセルがかなり出ていると伺っている。

記者：春季の教育旅行の受け入れが決定していたと思うが、実施されるか。

市：予約があった教育旅行はすべて秋に延期となった。

記者：市職員が1都3県に旅行、私用の外出をした場合、報告内容により2週間自宅待機となるようだが、県では職員に外出の制限はされてない。その違いの意図は。また、自宅待機となる目安はあるか。

市：職員には感染予防の安全策で要請したもの。自宅待機は報告内容をみて個別に対応する。

どうしても感染が多い区域に行かなければならない場合は、その後2週間の自宅待機もあることから、外出するかを慎重に検討し、感染の機会を避けてもらうよう職員へ通知した。

記者：県職員は1都3県に1泊以上の滞在があり、県内に戻る場合、2週間の自宅待機となっている。そのような目安はあるか。

市：日帰りでも感染の危険性はある。市職員は外出の自粛など、率先して感染しないように取り組んでほしいという注意喚起である。

記者：県外から市内に転入した児童・生徒はあるか。

市：1都3県から市内への転入児童が1人ある。転入後は、連絡をこまめにとり、児童の体温、同居者の健康状態を確認している。感染者との接触はなかったと聞いている。

記者：市民から、感染対策の要望はどのようなものが寄せられているか。

市：4月は県外から帰省している若者が多く、飲食店に集まっており、市民は心配している。市民だけでなく、市外からの市内滞在者に向けても防災行政無線で市長から注意を促してほしいと伺っている。

記者：市のマスクの調達の見通しは。

市 : 小・中学校の児童生徒、教職員にはマスクを配布した。大人用のマスクの在庫は現在なく、5月初旬には2千枚を調達できる見込み。

使い捨てマスクを使用するのが基本と思うが、市内の縫製業者が布製マスクを生産できると伺っているところであり、布製マスクも用意していきたい。

記者 : 市内の縫製業者へは布製マスクの生産の協力要請はいつ行うのか。

市 : 布製マスクの効果に疑問もあるが、マスクが手に入らないこともあり、今後、布製マスクの生産を要請したい。

記者 : 青森県ではねぶたや三社大祭の中止の検討のニュースで出ている。久慈秋まつりの開催はどうなるか。

市 : 青森ねぶたや盛岡さんさまつりの開催状況を参考にしての判断になると思う。感染症が収束し、安全が確認できれば開催は可能であるが、このままの状況だと開催は厳しい。現在、あまちゃんマラソン大会への参加募集も見合わせている。

記者 : 市内で感染症の症例が発生した場合、久慈市においても記者会見を行うか。

市 : 県からは知事が記者会見を行うと伺っている。保健所を所管する自治体が記者会見を行うこととなっている。

お知らせできるものがあれば市でも記者会見を行う。